平成 24 年 10 月 30 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1　日　　時　平成 24 年 10 月 30 日（火曜日）

午後２時 10 分から午後２時 55 分まで

2　場　　所　神田小学校

3　出席委員

委員長　大橋　岑生　　委　員　羽賀　友信　　委　員　中村　美和

委　員　青柳　由美子　　教育長　加藤　孝博

4　職務のため出席した者

教育部長	佐藤　伸吉	子育て支援部長	矢沢　康子
教育総務課長	若月　和浩	教育施設課長	安部　和則
学務課長	近藤　知彦	学校教育課長	田中　　仁
子ども家庭課長	佐藤　正高	保育課長	栗林　洋子
中央公民館長	武樋　正隆	中央図書館長	品田　　満
科学博物館長	山屋　茂人	科学博物館総括副主幹	小熊　博史
学校教育課主幹兼管理指導主事	関谷　祐二	学校教育課主幹兼管理指導主事	山田　　修
学校教育課主幹兼管理指導主事	大矢　慎一		

5　事務のため出席した者

教育総務課長補佐	新沢　達史	教育総務課庶務係長	水内　智憲
教育総務課庶務係	佐藤　可名		

６　議事日程

日程	議案番号	案　　件
１		会議録署名委員について

７　会議の経過

（大橋委員長）　これより教育委員会１０月定例会を開会する。

◇日程第１　会議録署名委員について

（大橋委員長）　日程第１　会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第２項の規定により、羽賀委員及び青柳委員を指名する。

（大橋委員長）　本日は特段、議案がないので協議報告事項に入る。報告事項として、学校給食における米飯給食の拡大について、事務局の説明を求める。

（近藤学務課長）　学校給食における米飯給食の拡大について、かねてからの方針どおり、11 月１日より米飯給食の回数をこれまで週 3.25 回から週 3.5 回だったものを週４回に拡大する。回数を増やす理由は、平成 21 年度から 22 年度に設置した学校給食検討会議で、米どころ長岡の郷土への関心を深め、地産地消に繋げるために増やすべきとの提言を受けたことからだった。11 月から開始する理由は、新米の流通時期であること、炊飯業者、製麺業者、パン業者との調整が整ったことから、このタイミングで拡大していく。

（加藤教育長）　回数増加に伴う給食費の値上がり等はないか。

（近藤学務課長）　給食費も経費も変更ない。

（大橋委員長）　週５回の給食中４回が米飯になると残り１回はどうなるのか。

（近藤学務課長）　パンと麺を交互に実施することになる。

（大橋委員長）　他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。次にＪＨＳながおか夢フェスタの開催に

ついて事務局の説明を求める。

（田中学校教育課長）　今年度の新規事業の１つで、市内中学生の総合文化祭として中学生の普段の学習や文化部の成果をアオーレ長岡のアリーナで発表する。出場は８校であるが、太鼓あり、琴あり、合唱ありと盛りだくさんの内容である。当日は教育委員会表彰もあるので元気な中学生の姿を見てほしい。

（羽賀委員）　タイトルのＪＨＳは一般市民にはわかりにくいので日本語訳を入れたほうがよいのではないか。

（田中学校教育課長）　市政だよりではジュニアハイスクールと注釈を入れてある。

（加藤教育長）　この８校が選ばれた理由は何か。

（田中学校教育課長）　参加の申し込みがあった学校である。

（加藤教育長）　その説明が大切である。市民が見たとき自分に関係のある学校が出ていないのはなぜかと疑問に思う。新規事業で呼びかけたところ、この８校が申し込みましたと示したほうがよい。今後こういうものはそういう感覚で作成した方がよい。

（大橋委員長）　そのような対応で今後お願いする。

（大橋委員長）　他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。次に平成 24 年度ポニー事業の実施状況ついて事務局の説明を求める。

（佐藤子ども家庭課長）　先日、今年のポニー関連の事業が終わったので今年度の実施状況を報告する。ながおかポニーカーニバルを９月 30 日（日）に千秋が原ふるさとの森　緑の広場で今回初めて開催した。当日は晴天に恵まれ、同日開催の緑の百年物語、長岡みどりフェスタ、すこやかともしびまつりの相乗効果で入場者は 2,400 人と過去最高、昨年比の２倍以上と大盛況で終わった。グラウンドポニースクールは９月中旬から下旬に実施し、小学校 12 校を巡回、平日の巡回を増やしたことにより昨年より１校多く巡回できた。ポニーとキャンプ in 蓼科は、夏休み期間中の７月下旬に３泊４日で実施した。定員 42 名のところ、毎年定員を上回る申し込みがある。今年は直前に１名キャンセルがあり 41 名が参加し、小学４年生から中学３年生までの複数の年代の交流とポニー体験を実施した。

（青柳委員）　ポニーとキャンプ in 蓼科には定員を超える 81 名の申込みがあったようだが、今後は定員を増やす可能性はあるのか。

（佐藤子ども家庭課長）　定員は大型バス１台で行ける人数であり、牧場の規模の関係から一度にそれ以上は難しい。あとは回数を増やすしかないが、夏休み中では１回の日程が限度である。

（加藤教育長）　自己負担額はいくらか。

（佐藤子ども家庭課長）　自己負担 27,000 円である。

（加藤教育長）　これだけの経費を自己負担しても、３泊４日の乗馬体験を避暑地である蓼科でできるので、親御さんには喜ばれている。

（若月教育総務課長）　この件に関しては後ほど教育委員協議会でもお話いただく。

（羽賀委員）　ポニーカーニバルに来た人数が 2,400 人なのか。

（佐藤子ども家庭課長）　そうである。相乗効果があったようだ。

（大橋委員長）　他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。次に病児保育の新規実施及び長岡市病後児保育事業実施要綱の一部改正について事務局の説明を求める。

（栗林保育課長）　11 月１日から、長岡で初めての病児保育をながおか医療生活協同組合に委託して実施する。名称は「病児保育すこやか」、所在地は沢田１丁目１番地２０、小児科医院の隣に当該施設を併設している。対象は原則、市内の幼稚園、保育園に通う園児及び小学１年生から３年生までの児童である。今まで長岡市では病後児保育を４か所で実施していたが、さらに充実した子育て支援を実施するため、病気中で回復期にない場合の保育サービスを提供することとした。これに伴い、現行の長岡市病後児保育事業実施要綱に今回の「病児保育」の内容を盛り込む形で一部改正を行う。また、この要綱改正は市長の補助執行なので、報告事項として当教育委員会に報告するものである。細かい改正点については新旧対照表にあるとおりである。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。次に長岡市私立幼稚園就園奨励費補助金

交付要綱の一部改正について事務局の説明を求める。

（栗林保育課長）　長岡市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正は市長の補助執行のため、当教育委員会には報告事項として報告するものである。改正の理由は、私立幼稚園就園奨励費補助金は長岡市内に在住する私立幼稚園園児の保護者に対する経済的支援を目的としており、長岡市内か市外かという幼稚園の所在地によって区別されるものではないので、要綱をより適切な表現に改めるものである。現行の要綱では、第２条で補助金の交付対象者を「市内」の私立幼稚園としているところの「市内」を削除する。施行期日は公表日の 10 月 12 日である。これに関連して、長岡市私立幼稚園就園費助成金要綱が今回改正する長岡市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の第２条を引用しているため、今回の改正で誤解が生じないよう文言整理をする。奨励費は幼稚園の所在地が長岡市内市外に関わらず対象となるが、助成金は幼稚園の所在地が長岡市内に限り対象となるため、両方の補助金対象者を明確にするためのものである。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。次に「ダウン症の書家金澤翔子書作展」の開催結果について事務局の説明を求める。

（品田中央図書館長）　「ダウン症の書家金澤翔子書作展」は９月 22 日（土）から 10 月 14 日（日）までの約３週間開催し、１万人を超える入館者があった。金澤翔子さんには期間中３回長岡に来ていただいた。また、お母さんの泰子さんの講演会も行った。作品も自由に撮影できたため、翔子さんが来場の際には来場者が一緒に写真撮影をしていた。図書館の 25 年間の自主企画では今回が最高の来場者となった。過去 25 年のベスト３は、1 位が平成７年のアンパンマンの作者であるやなせたかし展で約９千人、２位が平成２年のマリーローランサン展で約７千人、３位が昭和６２年の柿落とし大光コレクション里帰り展で約７千人であった。今回は初めて１万人の大台に乗った。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。次に大英博物館での火焔型土器の展示について事務局の説明を求める。

（小熊科学博物館総括副主幹）　馬高縄文館保管の火焔型土器２点を平成 24 年 10 月４日から平成 25 年１月 20 日までの約４か月間、イギリスの大英博物館で特別展示している。展示に至ったきっかけは、馬高縄文館の名誉館長　小林達雄先生を通じて、大英博物館から火焔型土器の代表的な出土品の多い長岡市の資料を展示したらどうかと提案があったことからだった。展示内容は、岩野原遺跡出土の火焔型土器２点を特別展示室ルーム３で展示するというもので、ルーム３は入口のすぐ脇にあり、多くの来館者の目に触れる良い場所である。年間 600 万人の観光客が訪れる大英博物館で今回の展示をすることにより、長岡の火焔型土器や縄文文化を世界に発信することができる。オープン当日は長岡市長が大英博物館を訪れ、オープンの前にテープカットをした。夕方には大英博物館近くの国際交流基金ロンドン日本文化センターで小林達雄先生の講演会があり、森市長もスピーチで長岡市をＰＲした。現在はアオーレ長岡で協賛展示としてパネル等を展示している。イギリスから２点の作品が戻ってきた時には、帰国展をアオーレで開催する予定である。大英博物館からの連絡によると 10 月４日から 21 日まで 18 日間で、来場者が 21,355 人、一日あたり 1,000 人以上が来場しているとのことだった。年間 600 万人の来場者があることから、入館者の１割弱程度の方がこの展示を見ているようである。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

（大橋委員長）　ないようなので、質疑、意見なしと認める。次に平成 24 年度県下生物・岩石標本展示会、自然科学写真展示会の開催について事務局の説明を求める。

（山屋科学博物館長）　10 月 23 日から 11 月４日まで、中央図書館美術センターで県内児童生徒による生物・岩石標本展示会と自然科学写真展示会を開催している。作品の応募状況は例年より少し少なめだが、今年から岩石・化石を加えたため、総数的には例年並みである。今週の日曜日までなので、ぜひご来場いただきたい。

（加藤教育長）　生物・岩石標本展示会について、全体として 146 応募作品中、長岡市内からの出品は 14 作品である。全応募 49 校中、長岡市内からの出品は小学校８校からしかなく、中学校は０校であった。実態としては、次第にこういうものから目が

離れ、その代わりにパソコンやスマートフォンを手にする機会が増えてきているのかもしれない。学校教育課の管理指導主事は学校訪問のときに話題として伝えてもらいたい。去年で 60 回を迎え、県下で一番歴史と伝統がある展示会なのでよろしくお願いしたい。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。次に長岡藩第 11 代藩主牧野忠恭公の肖像写真の展示について事務局の説明を求める。

（品田中央図書館長）　長岡藩第 11 代藩主・牧野忠恭（ただゆき）公の肖像写真を現在展示している。現当主の牧野忠昌さんの父が忠永さん、忠永さんの父が初代長岡市長の牧野忠篤さん、その父が牧野忠恭さんである。忠篤さんは忠恭さんの６男である。今回は写真の原板が見つかり、現所有者である長岡歯車資料館館長の内山弘氏から借用し展示した。湿板型により撮影された貴重なものである。10 月 19 日に科学博物館名誉館長の牧野忠昌さんに見ていただいたところ、写真中のサーベル、狩衣は現在も牧野家に伝わっているとのことである。あわせてホームページに掲載した。また、先日、新潟日報『nassh』に特集記事「図書館へ行こう」が掲載され、中央図書館・米百俵号・まちなか絵本館が取材を受けた。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。次に児童虐待防止推進月間について事務局の説明を求める。

（佐藤子ども家庭課長）　厚生労働省と内閣府が主管して、11 月は児童虐待防止推進強化月間ということで、長岡市教育委員会としては啓発チラシを 11 月の市政だよりに合わせて各町内会の班回覧をする予定である。あわせてポスターを学校、保育園等に配布し、掲示している。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。これをもって協議報告事項を終了し、本日の定例会を終了する。

（大橋委員長）　本日は、定例会の前に関原保育園、恵和保育園、神田小学校、下川西小学校を訪問した。委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

（中村委員）　関原保育園は、できたての新しい鉄筋コンクリートのすばらしい建物であった。職員は一生懸命やっていたし、教室内では子どもたちが０歳児からいたが、泣いている子はいなかった。０歳児と１歳児でお遊戯があり、０歳児の子どもでも喜んでリズムにのっていて驚いた。年長は絵を描いていて、年少･年中は粘土をしていたが、子どもたちが落ち着いて取り組んでいる様子で感心した。神田小学校は全校で111名の小規模校で、この良さを生かし、人との関わりを大切にした教育活動に力を注いでいた。３年前から遠足を全校で実施しているが、６年生が１年生の荷物を持ち優しく励ますなど、思いやりの心が芽生える有意義な活動のようだった。校長先生は、自分は今年ここに赴任してきたばかりだが、縦割り班の取り組みが普段の生活にも生きていて、枠を超えた活動が子ども達の成長を促しているようだとおっしゃっていた。

（大橋委員長）　関原保育園では、０歳児から年少の教室の床が床暖房かと思うようなやわらかく暖かい桐材でできていた。年中・年長の教室の床はかばの木で、使用する素材が変えられていた。園児は150名ほどで明るく落ち着いていた。職員は正規職員が園長・主任を含め１６名、臨時職員が９名で一生懸命取り組んでいた。年中、年長は避難訓練やいざという時のために靴を履かせていたが、年少以下は裸足で過ごしていた。すこやかチームと連携をとり、保育士、保健師、心理士が連携している様子でよかった。神田小学校はベテランの先生方と少人数の生徒で落ち着いた学習の雰囲気であった。これだけの校舎に111名しかいないのはもったいない、もっと子どもがほしいというのは否めない。給食などでは非常に明るくコミュニケーションをとっており、地域と一体化した教育活動・校外活動が印象的であった。

（青柳委員）　恵和保育園は270名定員のところ334名の園児がいる、一見小学校のような大きな保育園であった。教育目標は「生きていることは楽しいこと」ということで、型にはめない自然体験を大切にした教育を展開していた。当日は相撲遊びの千秋楽で、女の子も男の子も楽しんでおり、相撲にちなんでちゃんこ鍋がふるまわれていた。「人数が多いからこれができない」ということをなくすようにしているとのこ

とであり、また、大人数ということで、感染症に気をつけ細やかな神経を注いで予防を実践していた。先生方が保育を仕事とせず、楽しんで一緒にやろうという保育園であった。大人数のわりに大雑把ではなく、細やかな心遣いの施された園であった。生のなつめを捥いで食べたが、これは自分自身も始めての経験で、このような体験を小さいうちにできるのは幸せなことだと思った。下川西小学校では、給食を１年生と一緒にとった。子どもたちのコミュニケーション能力が高く、こちらがいろいろと質問するべきところを、「青柳さんのお子さんの名前は何というのですか？」と質問されるなど、気持ち良く過ごすことができた。校長先生が「当たり前を当たり前にできる子どもを育てる」ということをおっしゃっていて、させる活動ではなく、自らする活動という立場で児童が行動していた。他学年との交流が自然な形で活発に行われているが、全体で神楽をやるなどの伝統芸能を通して、また、地域活動を通して老人から子どもまで交流があることが要因のようであった。

（羽賀委員）　恵和保育園では防災教育をしていて、「ダメ！」ではなく「助けて！」と声を出す訓練をしていた。歌を歌ってくれたのだが、とても長い歌で、歌詞を覚えるだけでも大変なのに声が出ている子が多くいた。近ごろは言語化できない子が多い中、安心した。先生が一時も座っておらず、とにかく生命力にあふれた園であった。人数が多いだけでなく、混沌の中にもちゃんとした秩序があった。先生方自身が生きがいを感じているようであった。子どもたちがハロウィーンに関する希望を話し合い、ワークショップをしたものが表にまとめて貼ってあった。小学校ではなく保育園なのに素晴らしかった。また、自然から学ぶことが大切にしていて、園庭にはさくらんぼやグミがなっていた。自分自身の体験でもこのような体験はずっと覚えている。人間のあるべき姿が大切だということで、自然に触れさせ、食事も外で食べる等していた。アレルギーの子どもも卒園時には３分の１に減っているそうだ。卒園した子どもが小学校でつまずいてないか園に招待し、またその後中学に行った子も中一ギャップに陥らないように園に招待するというように、一貫した教育が延長線上にあるようだ。下川西小学校では２年生と一緒に給食を食べたが、子どもたちの方が気を使ってくれて居心地が良かった。昨年までの３年間、コミュニケーション能力を高めるためのプロジェクトを行った成果が現れていた。地縁のコミュニティが残っている良さをうまく学校が生かし、芸能クラブの活用や地域行事に参加するなどしていた。小規模校にあ

りがちな人間関係の固定化に対しても、その子の潜在能力を引き出し、気づきを共有するよう取り組んでいた。球技がやれない環境というネックも工夫をしていた。先生方が非常に落ち着いていて、かつ元気な子どもを育てていた。非常に勉強になった。

（加藤教育長）　恵和保育園では図工、体育、家庭科の調理実習までの総合学習のようなものをやっていて、ここの卒園児は小学校では物足りないのではないかというくらいであった。公立保育園は、同じようなことができるか見学したほうがよいと思う。学校でも、研究会があるから見学に行くのではなく、積極的に他校を見ておくことは良いことである。下川西小学校は 80 名規模の学校であったが、小規模校なりの工夫をして安定感のある子どもたちを育成していた。校長自らが教育相談のプロなので上手く取り組んでいた。

（大橋委員長）　これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員